

東ティモール赤十字社組織強化事業

大阪赤十字病院国際医療救援部係長 喜田 たろう

東ティモール民主共和国は、ポルトガル植民地時代（約 450 年間）、インドネシア統治時代（24 年間）、国連暫定統治機構（1999 年～2002 年）といった外国による支配・併合及び外部機関による統治を経て、2002 年 5 月に正式に独立を果たしました。また同国の赤十字社である Cruz Vermelha de Timor-Leste（CVTL）は、2000 年に設立され、2005 年に政府および赤十字国際委員会によって承認された後、183 番目の赤十字社として国際赤十字赤新月社連盟（連盟）に加盟しました。

その後 CVTL は、過去の紛争状態を経験した職員・ボランティアたちの献身的な努力と、日赤を含む国際赤十字からの支援によって目覚ましい発展をとげ、現在では首都ディリに本社、13 県すべてに支部を置き、160 名の職員と 3000 名近いボランティアを擁して、脆弱なコミュニティに対する保健、防災、給水・衛生や生計支援などの包括的な支援を中心に、災害対応、救急法普及、HIV/AIDS 知識啓蒙、国際人道法普及、青少年赤十字事業などの幅広い分野で活動をおこなっています。

私は 2013 年 10 月から 2 年間、連盟の要員として、東ティモールに派遣され、連盟の組織強化（OD）部門事業管理者として、事業計画・予算策定、執行管理、支援社（団体）への報告業務を担当し、連盟アジア大洋州事務所、東南アジア地域代表部、他国赤十字社などとの、CVTL に対する技術・財政支援に関する調整を行いました。

派遣中は、CVTL の長期戦略改訂、定款改訂、関連規則類の策定、組織機能評価（OCAC）の実施と改善計画の策定および実行、支部開発、ボランティア管理、社員管理の改善に携わり、CVTL が設置した各種作業部会のメンバーとして会計管理、財源確保、事業評価・報告システム、IT、ウェブサイト開発を含む広報の強化など、CVTL が重要課題と位置づける種々の活動に関与しました。

同国最大の人道支援団体として広く認知される CVTL ですが、いまだその事業の多くは、日赤を始めとする国際赤十字からの技術・財政支援に大きく支えられており、彼らの長期戦略や事業方針を尊重した長期的な視野での国際支援が引き続き必要とされています。

CVTL が組織強化の目標である強力な赤十字社となり、様々な脆弱性の改善に独力で取り組める日が、一日も早く来ることを期待したいと思います。



世界赤十字デーイベント



政府主催の災害訓練に救護班を派遣



地方の村落に CVTL が設置した給水システム



様々な機会を利用して救急法を普及する



民主的な手続きで CVTL の代表が選ばれる



CVTL 青少年ボランティア達